

# 27年7月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
7月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		27/7月	8月	9月
伐採動向	スギ	△ 14.3	0.0	△ 7.1
	ヒノキ	△ 10.0	△ 10.0	△ 40.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	33.3	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	△ 25.0	0.0	△ 16.7
	ヒノキ	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
	カラマツ	16.7	△ 33.3	△ 16.7
	エゾ・トド	16.7	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	0.0	△ 16.7	△ 16.7
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 12.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 16.7
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 33.3	△ 33.3

・スギ、ヒノキ及びカラマツの伐採動向は、スギの8月の横ばいを除いて3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは7月の増加が8月及び9月は横ばい。

・出荷・販売動向は、スギは7月の減少、8月の横ばいが9月は再び減少。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは7月の増加が8月及び9月は減少、エゾ・トドは7月の増加が8月及び9月は横ばい。

・手持ち立木在庫は、スギの7月の横ばいを除いて各樹種とも3ヵ月連続して減少。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・国有林立木販売箇所のトドマツ間伐実行中、当月下旬から国有林の素材生産請負に入るので伐採動向は横ばい。
- ・スギは前月に続き動きが弱い、カラマツは前月に続き引合いは強い。
- ・スギ、ヒノキ価格が安いので、伐採は休止。
- ・主伐と間伐を平行して行う。

#### (出材・販売動向)

- ・トド一般材・合板材・原料材は出材調整なし。
- ・スギ販売は控えめ、カラマツは強気販売。
- ・スギ、ヒノキは価格が下がっているので出材を控えている。
- ・材価低迷のため出材量を減らす。バイオマスや危険木撤去の作業を増やす。

#### (手持ち立木在庫)

- ・トドマツ手持ち立木は当月伐採でやや減少だが、在庫に余裕あり。国有林の立木公売に良い物件あれば応札予定。
- ・スギ立木買入れ控えめ、カラマツ立木強気買入れ。